



修学旅行京都編 時を超え美しくひと輝く歴史都市

修学旅行2日目。最初の見学地二条城は、江戸幕府初代将軍徳川家康が、天皇の住む京都御所の守護と将軍上洛（京都へ行くこと）の際の宿泊所とするために築城したものです。また、15代将軍徳川慶喜（よしのぶ）が二の丸御殿で「大政奉還」（幕府がもっていた政権を朝廷に返還したこと）の意思を表明したことは、日本史上あまりにも有名です。



子供たちは、部屋数33室、800畳に及ぶ二の丸御殿、豪華絢爛な彫刻や代表的な「松鷹図」をはじめ、将軍の威厳を示す虎や豹、桜や四季折々の花を描いた狩野派の障壁画などに見入っていました。また、歩くたびに音が鳴る「鶯張り（うぐいすばり）」の廊下を踏みしめ、防犯対策の音に耳を傾けていました。ただ、自分が昔訪れたときと違ってコロナ感染防止のためか絨毯が引かれ、直接板を踏みしめて鳴る音ほど小さくなく残念でした。コロナ前に戻ることを願っています。



次の見学地は金閣寺。正式名称は鹿苑寺（ろくおんじ）です。三層造りになっている舍利殿の二層と三層に金箔が貼られ、一般的に金閣寺と呼ばれるようになっています。金閣寺を建てたのは、室町幕府3代将軍、足利義満（あしかがよしみつ）であり、『金閣寺は、義満が自分の権威を誇示するために作ったもの』だったという説があります。この日はわずかな風があり、鏡湖池（きょうこち）に映る逆さ金閣こそ見えませんでした。子供たちは、黄金に輝く舍利殿や最上部の金色の鳳凰に見とれていました。

午前中最後の見学地は清水寺。この時期は紅葉が大変美しく、清水寺から一望できる京都の街並みや、釘を1本も使わずに組み上げた12mにも及ぶ巨大な檜の柱からなる「清水の舞台」に子供たちも心を奪われていました。また、弁慶の鉄の下駄（げた）に触れたり、重さ約17キロの錫杖（しゃくじょう）を持ち上げたりと、清水寺を満喫していました。



修学旅行最後の見学地は嵐山。桂川に架かる長さ155mの渡月橋は嵐山のシンボルとなっており、多くの観光客が往來します。また、紅葉の名所としても有名で、修学旅行生に加え、一般客や外国の方々もみえて、大変な賑わいでした。子供たちは、す



らっと空へ高く伸びた大迫力の竹林道を歩き、竹林の隙間から差し込む木漏れ日の幻想的な世界に浸るかなと思いきや、見慣れた大自然よりも大切な家族に持って帰るお土産に夢中になっていました。でも、いつかきっと「渡月橋」や「竹林の小径」の魅力に心奪われる日が来ると思います。

以上、1泊2日の奈良・京都の修学旅行は、思い出深い最高の旅行となりました。何よりも、参加者全員が健康で無事に帰ることができて本当に良かったです。